



ショートガイド

ヨーロッパ随一のダイニングホール



PAINTED HALL
OLD ROYAL NAVAL COLLEGE





ペインテッド ホールは、しばしば「ヨーロッパ最高のダイニング ホール」と呼ばれています。クリストファー レン卿とニコラス ホークスモアが1698年に設計したこのホールは当初、王立海軍病院に住んでいたグリニッチ ペンションナーと呼ばれる海軍の退役軍人たちのための食堂として意図されていました。完成時に、日常的な使用には華やかすぎると考えられ、まもなくロンドン初の観光地の一つとなりました。品行方正な訪問者たちは、3d (約 1.80 ポンド) の料金で見学を許され、しばしばガイド付きツアーのためにペンションナーを雇っていました。1824年から1936年に、ペインテッド ホールは National Gallery of Naval Art (国立海軍美術館) とも呼ばれるようになりました。ここには海軍をテーマにした 300 作もの絵画が展示され、国立海事博物館の美術コレクションのもとになりました。



アーティスト

セント ポール大聖堂のドームの内装を描いたジェームズ ソーンヒルは、1708年にペインテッド ホールの装飾を開始しました。英国の運勢における海軍の重要性を強調するものをできるだけ多く含めるようにという指示を受けました。ソーンヒルはここ全体でトロンプイユ (だまし絵) におけるめざましい技能を発揮し、遠近法を最大限に活用しました。かなり危なかったであろうと思われる足場から、乾いたしっくいに直接描きました。その「根気のいる大作業」に対して、ソーンヒルに支払われたのは、天井は 1 平方ヤード (約 1 平方メートル) につき 3 ポンド、壁は 1 平方ヤードにつき 1 ポンドのみでした。19年にわたる努力の結果、イングランド人の芸術家による最高の建築内装絵画が生れ、ソーンヒルは 1720 年に爵位を授かりました。

玄関

丸屋根を見ると、四方が擬人化されていることがわかります。その下には、王立海軍病院の建設にもっとも密接に関わった王族、ウィリアムとメアリー、アンとジョージのモノグラムが描かれています。飾り板には、後援者からの建築費の寄付が記載されています。



ローワー ホール

主中央オーバルでは、ソーンヒルは主に暴政の力に平和と自由が勝つことを表現しています。ソーンヒルは近代と古典史、古代ギリシャ神話、キリスト教の寓話、伝統的な象徴主義を複雑に混合しています。天国では、ウィリアム王とメアリー王妃が王位に就いています。その上では、太陽の神アポロが光を投げ、ハトや子羊を共にするピース（平和）は、ウィリアムにオリーブの枝を渡しています。ウィリアムは自由を表す赤い帽子を、ひざまずくヨーロッパに手渡しています。ウィリアムの足の下には、敗れたフランスの支配者ルイ 14 世が壊れた剣を抱えています。左側では、スピリット オブ アーキテクチャー（建築の精神）がレンによるこの建物の設計を持ち、タイム（時間）がトゥルース（真実）の裸体を持ち上げています。オーバルの一番下では、女神ミネルバ/アテナとヘラクレスが、この天国のビジョンからバイス（悪徳）を放り出しています。ゾディアック（黄道帯）と四季のしるしがオーバルの端の周りに配置され、時の流れを表しています。



印や記号

ローワー ホールの両端には船が描かれています。東側には戦利品を満載したスペインのガリオン船、西側には砲門を開き戦闘準備を整えた英国の軍艦ブレンハイムが描写されています。天文学、および航海法におけるその重要性についてのモチーフがたびたび使用されています。ホールの東側の端には、有名な天文学者たち、ジョン フラムスティード卿（初の王立天文台長）とそのアシスタント、トマス ウェストン、コペルニクスとティコ ブラウエが描かれています。西側の端には、アルキメデスをはじめとした古代の学者たちが航海法と地理学を表しています。

アッパー ホール

アッパー ホールは、ホークスモアによる美しいデザインの家紋と金メッキを施したゾディアックの記号が描かれたアーチを通ったところにあります。ここでは、ソーンヒルの絵では海運国としての英国の勝利を描写しています。中央の天井パネルは、アン女王とその夫デンマークのジョージに敬礼しているビクトリー（勝利）が描写されています。世界の 4 つの角（オーストラリア、ニュージーランドおよびその周辺の島は、ヨーロッパ人がまだ見つけていませんでした）が内側に向いています。



西の壁

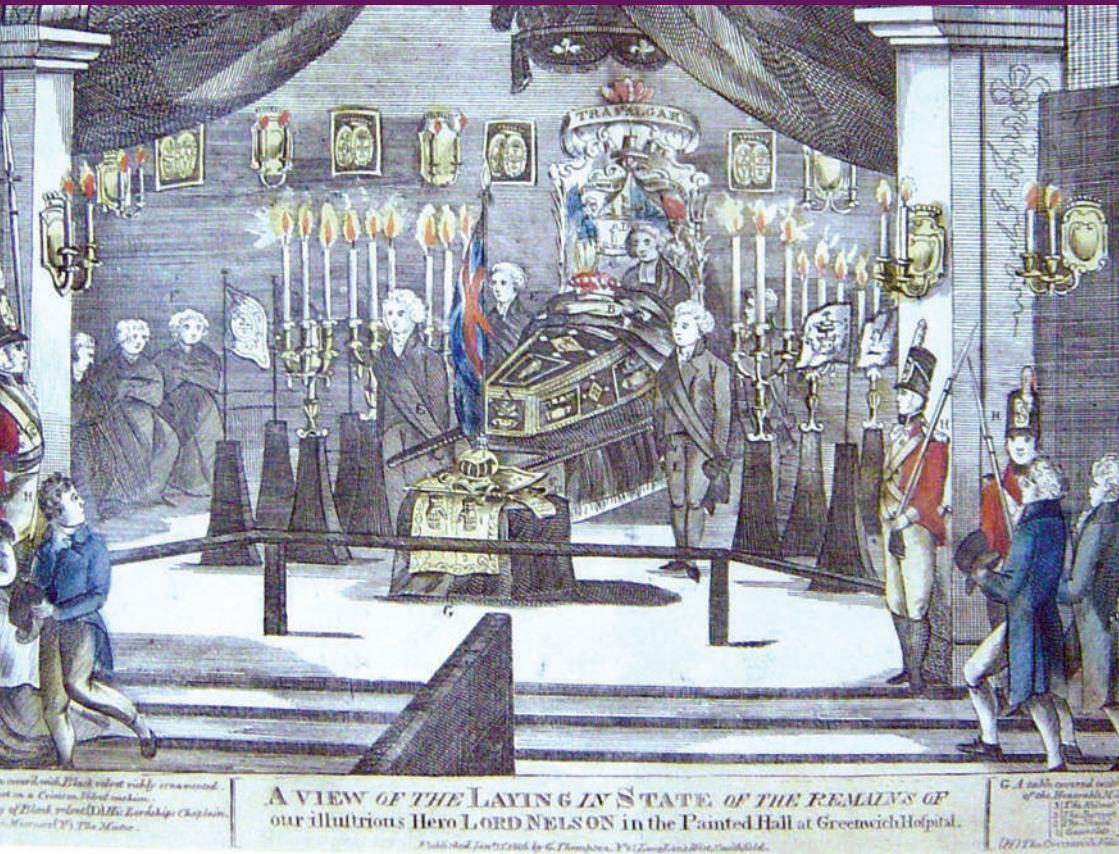
ここでは、ソーンヒルはドイツのハノーバーから来た英国の新しい王族を描いています。ジョージ 1 世は、その子供や孫に囲まれています。レンのセント ポール大聖堂の特徴的なドームが、大きく背景に見られます。絵筆とパレットを持つソーンヒル当人も、右下の角に描かれています。この壁の構図がソーンヒルによるものであることは確実ですが、おそらく有能なアシスタント ディートリッヒ アンドレが描いたものであると思われる。

南と北の壁

左側にある南の壁は、オレンジ公ウィリアムがその妻メアリーと共に共同で王位につくために、1688 年にトーベイに到着したところを描写しています。北の壁では、1714 年にジョージ 1 世が王位を申し立てるためにグリニッチに到着したところを表しています。



ご存じでしたか? 海軍元帥東郷平八郎侯爵は、日本海軍最大の英雄の一人であり、しばしば「東洋のネルソン」と呼ばれています。1876年に王立海軍兵学校で天体航法を学んだ東郷が、ペインテッド ホールでフォーマル ディナーに参加したことは確実です。1878年に日本に帰国し、清仏戦争、日清戦争、日露戦争で軍事作戦を先導し、成功を収めました。



ネルソンとペインテッド ホール

1805年10月21日のトラファルガーの戦いの3ヶ月後に、ネルソンの遺体がグリニッチに運び戻され、ペインテッド ホールで公開安置されました。1月の3日間に、3万人もの民衆が海軍の英雄に敬意を表しにやって来ました。1月8日に、セントポール大聖堂での国葬のために、ネルソンの遺体が海軍本部に川で運ばれました。ネルソンの遺体が安置された場所は、飾り板で示されています。アッパー ホールの左側にあるネルソン ルームには、ネルソンとそのグリニッチとの関連についての簡潔な展示があり、トラファルガー 広場にあるネルソン記念柱の上にある像の実物大の複製も含まれています。

www.ornc.org info@ornc.org T: 020 8269 4799

[www.twitter.com/orncgreenwich](https://twitter.com/orncgreenwich) www.facebook.com/oldroyalnavalcollege

写真: thedpc.com、ニューバリー スミス写真館のピーター スミス、ジェームズ プリタン写真館 デザイン: www.fitcreative.ltd.uk